

MRI 検査時の注意事項

1. 体内・体外金属

体内・体外に金属のある方は検査ができない場合があります。

- ペースメーカー ICD 人工内耳 神経刺激装置 内視鏡クリップ
脳動脈瘤クリップ・コイル 脳室シャントチューブ ステント 心臓人工弁
手術クリップ 磁気インプラント 人工骨頭 人工関節
強磁性体の破片 その他磁性体金属 入れ墨

2. 閉所恐怖症の方、妊娠中の方も検査ができない場合があります。

造影 MRI 検査（ガドリニウム系造影剤使用）に関する説明

1. 造影剤の使用目的

造影剤を静脈内に注入することより、病気をより正確に診断する上で現在欠かすことができない検査の一つです。造影剤を用いなくても MRI 検査は可能ですが、より正確な診断、治療をする目的で使用します。

2. 造影剤の副作用

ガドリニウム系造影剤は基本的に安全な薬剤とされています。しかしまれに次のような副作用が報告されています。

●軽い副作用：吐き気、動悸、かゆみ、頭痛、くしゃみなど

このような場合すぐに症状は治まり通常心配ありません。（100 人に 1 人）

●重い副作用：呼吸困難、意識障害、ショックなど

このような場合すぐ適切な処置をし、入院治療を要します。（2 万人に 1 人）場合によっては死亡する例（100 万人に 1 人）もあると報告されています。

●遅発性副作用：検査後 1 時間から数日の間に軽い頭痛、吐き気、発疹、かゆみ等が現れる事があります。

通常は自然に回復します。

●造影剤を注入中に、血管外に造影剤が漏れる場合があり、場合によっては注射針の刺し直しを行う事があります。また露出した部位に腫れや痛みを伴う事がありますが、自然に吸収され心配ないですが、まれに処置が必要な場合があります。

3. 禁忌 検査は行いません

- ・ガドリニウム造影剤に過敏症の既往歴がある方

4. 原則禁忌

以下の既往がある方は造影剤の副作用が生じる可能性が高いため造影検査をおこなうと副作用の頻度が高くなるとされています。医師と相談の上検査を受けてください。

- 腎臓の機能が悪い方 ○透析中の方 ○妊娠中の方

5. 急変時の対応

万が一副作用が起こった場合には迅速かつ最善の処置を行います。極めてまれですが重篤な副作用の場合は院内放送により院内の医師、医療スタッフが総動員する緊急時システムが確立されています。